



市民記者のページ

市民の目線で、イベントや団体の活動などを紹介してくれた市民記者のみなさんに、活動の感想を伺いました。

都市鉱山からつくるみんなのメダル 星野 道子(向上野)

コロナ自粛が続いた日々、そのような中でも、無観客ながら実施された「2020東京オリンピック・パラリンピック」。多くの場面で感動しました。また、市民記者の取材をとおし、市民のみなさんもそれぞれの状況に応じて、できることを実施している様子をかい間見ることができました。

文字で伝える楽しさ、難しさ 山口 信也(末広町)

今年度、市民記者として初めて活動し、文字で伝えることの難しさを知りました。今回取材した「若手経済団体YEGの活動」では、コロナ禍でも経済を止めないよう、互いに手を取り合い、難局を乗り越えようとする姿に仲間を思う絆を感じました。来年はしもだて商工まつりを取材したいです。

食生活改善推進員の取組み 小島 正美(柳)

毎日の食卓から健康づくりを実践する素晴らしい取組みを紹介することで、食事を用意する人々へのエールとなればとの思いを込めました。コロナ禍で地域の行事が減り、テーマ選びが難しい中、さまざまな活動をする人も筑西市の魅力だと思いき記事にさせていただきました。

県西総合公園 和田 恵子(榎生二丁目)

コロナ禍で思うように取材できないこともありましたが、県西総合公園について、みなさんにその魅力を伝えられることができたのではないかと思います。今後も、市の魅力を一人でも多くの人に伝えられるよう、さまざまなことに興味や関心を持ちながら市民記者として活動していきたいです。

放課後児童クラブ 館野 敏子(関本上)

長引くコロナ禍で、子どもを取り巻く環境は大きく変わってしまいました。子どもたちは与えられた環境の中で、とても元気に生活していました。取材の時、ピープルを知らない親子が多かったため、子育て世代の人に大切な情報が載っている広報紙を、たくさんの人に見てほしいです。



筑西こども食堂 有りの美 大泊 知子(黒子)

コロナ禍でもできること、コロナ禍だからこそやれることをたくさん学び、地域活性化のためには、そこに住む人々の笑顔がなければ成り立たないと感じた一年でした。安心して働く場所や、心が安らぐ自分の居場所があり、共に歩む仲間がいる。私たちの住むまちがそうあってほしいです。

リサイクルと野菜朝市 中木屋 宏(下川島)

取材をとおして、精神的なつながりや支え合いが、コロナ禍やアフター・コロナにおいても、大切なことなのではないかと改めて感じました。また、地域の活動拠点となる憩いの場が在ることの有り難さや、その場所を地域のみなさんが維持し、活用していくことも大切なことだと思います。

新たな挑戦 市民記者 中島 英雄(蒔田)

今年度から、市民記者として活動させていただきました。全てが新鮮で、実りある一年になったと実感しています。月一回行われる会議では、記事の意見を出し合い、一つの記事が出来上がっていくことに感心しました。来年度もチャレンジ精神で、多様な分野を取材していきたいです。

地域で守るふるさとの温もり 島田 敏(海老ヶ島)

地域の人々と顔を合わせる機会が減っていく中、海老ヶ島のどんと焼きは、三世代が交流できるふるさとのお祭りとして、古くから受け継がれていて、とても温かいものを感じました。ふるさとの温もりなど、筑西市の魅力の一つとして来年も発掘していけたらと思います。



市民記者のページは、こちらからご覧ください。

